



第4回

稲門医学会

**これからの医学に早稲田ができること
～ポリフォニー（多声）の必要性～**

2020年12月13日（日）

会場：Web 開催（Zoom 及び Youtube 配信を予定）

会費：3,000円

13:00～14:00 一般演題

14:00～15:00 シンポジウム1 「早稲田からの医療への新しい取り組み」

15:00～17:00 シンポジウム2 「当事者・市民協働の医療を目指して」

稲門医学会ホームページ

<https://tomonigakkai.wixsite.com/4thannualmeeting>



WASEDA
MEDICAL ACADEMIC
SINCE 2017



<大会長挨拶>

第4回稲門医学会

羽鳥 裕 (稲門医師会会長)

(日本医師会常任理事 日本専門医機構理事 はとりクリニック理事長)



第4回稲門医学会を2021年12月13日(日)にて、オンラインをメインにハイブリッド形式開催いたします。

当日の進行は別紙のごとくではありますが、コロナ下での新しい時代に備えて、早稲田らしく柔軟にかつ先取の精神のもとめげることなくしっかり対応していきましょう。

早稲田大学に医学部は存在しませんが、東京女子医科大学と共同で、早稲田大学先端生命医科学センター(TWIns)で、これまで動脈瘤治療用人工臓器、ScottなどのAI手術室、医学領域の発展に尽力して参りました。早稲田大学で理科系、文化系などでの学びを生かして、臨床医や研究者として全国各地で活躍しています。本学術講演会は、早稲田大学で学んだ経験を有する医師はもちろんのこと、職種の壁を超え、医学・医療にかかわる多くの職種が一同に会し、様々な医療分野における諸問題について学術発表、討論を行う場であり、その成果を広く公開し、今後の医学・医療の発展に寄与することを開催目的としております。

皆様の積極的なご参加と、活発な発言等を期待しております。

<プログラム>

13:00 開会の挨拶

灰田 宗孝 (稲門医学会 会長)

13:00-14:00 アカデミア指名セッション

【座長】

灰田 宗孝 (東海大学医療技術短期大学 学長付)

【登壇者】

「先端サイエンス・テクノロジーで分析する医師の診察」

竹村 洋典 (東京医科歯科大学医学部教授)

「日本の麻酔科学研究の現状と対策」

廣田 和美 (弘前大学医学部教授)

「これからの医学・医療への関心喚起の取り組み」

朝日 透 (早稲田大学理工学術院教授)

14:00-15:00 シンポジウム1

「早稲田からの医療への新しい取り組み」

【座長】

宮田 俊男（早稲田大学理工学術院教授）

【登壇者】

「レギュラトリーサイエンスの実践 —革新的技術の取り込み—」

鎌田 光明（厚生労働省医薬・生活衛生局長）

「医療への新しい取り組み ～起業、ビジネスから～」

坂野 哲平（株式会社アルム 代表取締役社長）

「ロボット技術と未来の手術

—スマートロボットとスマート治療室の開発—」

村垣 善浩（東京女子医科大学医学部教授）

15:00-17:00 シンポジウム2

「当事者・市民協働の医療を目指して
～当事者・市民が医療に望むこと」

【座長】

武藤 真祐（医療法人社団鉄祐会理事長）

杉原 正子（東京医療センター精神科医師）

【登壇者】

「政治が医療の改革にできること」(仮)

川田 龍平（参議院議員）

「4回のがん闘病経験から考える、医師と患者の
コミュニケーションと信頼関係構築における課題」

高山 知朗（株式会社オーシャンブリッジ ファウンダー
悪性脳腫瘍（グリオーマ）、悪性リンパ腫（急性リンパ性
白血病）、急性骨髄性白血病、大腸がんのサバイバー）

「医療経済、医療倫理、医学教育と当事者・市民協働参画」(仮)

花井 十伍（全国薬害被害者団体連絡協議会代表世話人、
HIV 薬害訴訟大阪原告団長）

【特別出演】

「補完代替療法を利用する患者心理から見えてくる、
今、医療現場に足りないこと」

大野 智（島根大学医学部附属病院臨床研究センター）

17:00 閉会の挨拶

羽鳥 裕（稲門医師会 会長）

稲門医学会学術集会

「これからの医学に早稲田ができること ～ポリフォニー（多声）の必要性～」

アカデミア指名セッションプログラム

13：00-13：20

「先端サイエンス・テクノロジーで分析する医師の診察」

竹村 洋典（東京医科歯科大学医学部教授）

13：20-13：40

「日本の麻酔科学研究の現状と対策」

廣田 和美（弘前大学医学部教授）

13：40-14：00

「これからの医学・医療への関心喚起の取り組み」

朝日 透（早稲田大学理工学術院教授）

稲門医学会学術集会

「これからの医学に早稲田ができること ～ポリフォニー（多声）の必要性～」

シンポジウムプログラム

第1部 「早稲田からの医療への新しい取り組み」 14：00-15：00

14：00-14：15

「レギュラトリーサイエンスの実践 –革新的技術の取り込み–」

鎌田 光明（厚生労働省医薬・生活衛生局長）

14：15-14：30

「医療への新しい取り組み ～起業、ビジネスから～」

坂野 哲平（株式会社アルム 代表取締役社長）

14：30-14：45

「ロボット技術と未来の手術 –スマートロボットとスマート治療室の開発–」

村垣 善浩（東京女子医科大学医学部教授）

14：45-15：00 ディスカッション

稲門医学会学術集会

「これからの医学に早稲田ができること ～ポリフォニー（多声）の必要性～」
シンポジウムプログラム

第2部 「当事者・市民協働の医療を目指して

～当事者・市民が医療に望むこと」 15：00-17：00

15：00-15：05

注意事項、背景のご説明

杉原 正子（独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター）

15：05-15：25

「4回のがん闘病経験から考える、

医師と患者のコミュニケーションと信頼関係構築における課題」

高山 知朗（株式会社オーシャンブリッジ ファウンダー

悪性脳腫瘍（グリオーマ）、悪性リンパ腫（急性リンパ性
白血病）、急性骨髄性白血病、大腸がんのサバイバー）

15：25-15：45

「医療経済、医療倫理、医学教育と当事者・市民協働参画」(仮)

花井 十伍（全国薬害被害者団体連絡協議会代表世話人、
HIV 薬害訴訟大阪原告団長）

15：45-16：05

【特別出演】

「補完代替療法を利用する患者心理から見えてくる、今、医療現場に足りないこと」

大野 智（島根大学医学部附属病院臨床研究センター）

16：05-16：25

「政治が医療の改革にできること」(仮)

川田 龍平（参議院議員）

16：25-16：55

質疑応答・全体討論

16：55-17：00

ご挨拶 武藤 真祐（医療法人社団 鉄祐会）

座長：灰田 宗孝

(東海大学医療技術短期大学 看護学科 教授・学長付
東海大学 湘南校舎産業医)



【経歴】

- 昭和44年3月 早稲田大学理工学部 物理学科 卒業
- 昭和51年3月 早稲田大学大学院理工学研究科0物理学および
応用物理学専攻博士課程 修了 (理学博士) を授与される
- 昭和52年4月 東海大学医学部第2学年へ編入学
- 昭和57年3月 東海大学医学部 卒業、医師国家試験合格
- 昭和63年9月 医学博士学位を授与される

【職歴】

- 平成3年8月1日-平成4年7月31日
米国ペンシルヴァニア州ペンシルヴァニア大学生物物理/生化学教室
Briton Chance 博士のもとで近赤外光による生体組織エネルギー状態の
測定法に関する研究に従事
- 平成19年4月 東海大学医学部副学部長、情報システム部長、教育計画部長
- 平成31年4月 医療技術短期大学看護学科教授、同学長付、湘南校舎産業医現在に至る

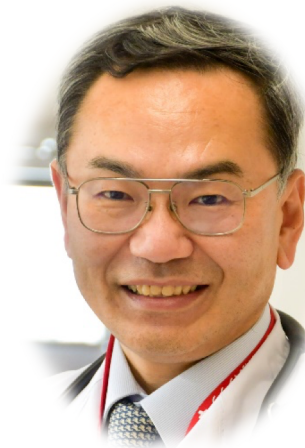
【自己紹介】

東海大学付属の東海電波高等学校という工業高校電子科で電子回路等を学び、より本質的な事を知りたく昭和40年早稲田大学理工学部物理学科1期生として入学、卒業後大学院に進み、ボラサイトという結晶の電気磁気効果の研究で、理学博士の学位取得したが、学問は人間に還元できる必要がありとの考えから、より人に近い医学に進むため、東海大学医学部に学士編入し卒業、国試も合格し、神経内科医となった。大学院でNMRに関する研究で、医学博士の学位を取得、その後近赤外光を用いた、脳機能研究に携わり、現在に至る。

「先端サイエンス・テクノロジーで 分析する医師の診察」

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
総合診療医学分野

竹村 洋典



【抄録】

医療面接は医療の主要な部分で、診断の 8 割が得られるという。しかし日本において効率的な医療面接がまた十分に解明されていない。診療において患者や医師をビデオで録画し、また診療の後で不安度、抑うつ度、患者満足度などの調査票の回答を患者さんお願いしている。その結果、身体的疾患や不安状態を明らかにするために必要な医療面接技法が明らかになった。しかし日本において深刻な社会問題であるうつ病などにみられる抑うつ気分は、どのような医療面接技法を使っても、医師が認識しにくいことが分かった。一方、感情は非言語的に会話していることが認識されている。我々は抑うつ気分の程度を表情分析や音声分析を使用して明らかにする試みがなされている。

これらの研究によって、日本の医療現場で使用するべき医療面接が明らかになった。また、先端サイエンス・テクノロジーを使用することで、患者の感情ですら、認識できつつある。今回はその一端を、ご紹介する。

【現職】

教授

【経歴】

1988 年に防衛医科大病院等で総合臨床医学研修を開始、1991 年に米国・テネシー大にて 3 年間、家庭医療レジデントとなり米国家庭医療専門医および米国家庭医学会フェロー取得。1995 年熱帯医学フェロー。1998 年から防衛医大病院総合臨床部・助手。2001 年から三重大医学部附属病院総合診療科・准教授、2010 年から三重大学

大学院医学系研究科家庭医療学／医学部附属病院総合診療科・教授。2018年7月より東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科全人的医療開発学講座総合診療医学分野教授。三重大学名誉教授。

【学歴】

早稲田大理工学部機械工学科から1982年に防衛医科大に入学、1988年に卒業。

【資格等】

米国家庭医療専門医・米国家庭医学会認定フェロー、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医、日本医学教育学会認定医学教育専門家。

米国家庭医療学会・研究優秀賞、日本プライマリ・ケア学会・学会誌優秀論文賞受賞。

日本プライマリ・ケア連合学会誌編集長、Asia Pacific Family Medicine Journal (WONCA-APR 学術誌) 編集長。医学博士。

【学会】

WONCA-APR (国際総合診療医学会アジア大洋州支部)

日本プライマリ・ケア連合学会 理事

日本内科学会

日本医学教育学会

日本専門医機構総合診療医検討委員会・委員、認定更新部会長

「日本の麻酔科学研究の 現状と対策」

弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座

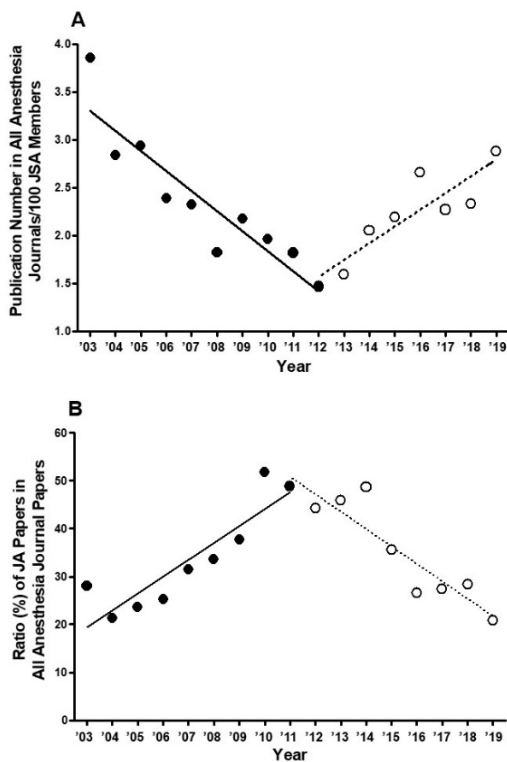
廣田 和美



【抄録】

日本麻酔科学会学(JSA)機関誌の Journal of Anesthesia (JA)の編集長をしていた 2011 年に、JA 誌に"Scientific publications in anesthesiology journals from East Asia: a 10-year survey of the literature"(1)が掲載され、この論文から日本発の麻酔科学研究論文が直線的に減り続け、中国、韓国に並ばれようとしていることを知った。このため、日本の麻酔科学

研究の再興を図るべく、日本発麻酔科学論文数の年次推移並びに減少の原因を定期的に解析し、その結果を JA 誌に Editorial として執筆することで会員と危機感を共有するよう努めた(2)。また、JSA 理事となり学術委員会で、分析結果を提示しながら、日本の麻酔科学研究再興のための方策を提言し、また学会での講演でその方策を示してきた。若手麻酔科医の為には、登竜門的な英文誌となる JA Clinical Reports (JACR)の創刊を JSA 理事会で認めて貰った(3)。このため、その責任を取るため JACR の編集長に就任し、若手研究者の論文投稿推進の環境作りに努めた。活動開始後、日本発の IF 付国際麻酔科学誌への掲載論文数は、2012 年に底を打ち、その後 V 字回復している(4)。また解析の



結果、JA 誌が日本の麻酔科学研究を下支えし、再興が進むにつれて JA 誌への依存度も減少傾向にあることが分かった(5)。しかし、JSA 年次学術集会での応募並びに採用演題数は、論文数の回復と異なり減少には歯止めがかかっていない。この為、2021 年から Medically Challenging Cases という症例報告のセッションを大会に設置し、今まで認めてこなかった症例報告を認める代わりに、発表・討論全て英語で行うことで、やる気のある若手麻酔科医の発表機会の増加と同時に演題数増加も期待している。Nature Index の報告(6,7)を読むと、麻酔科学研究の推移は日本の医学研究の縮図と言える事が分かった。早稲田大学は、TWIns と共に、将来設置予定の医学部で研究心を持った医学部生を育てることで、日本の医学研究に貢献できると考える。

1. Li Z, et al. Scientific publications in anesthesiology journals from East Asia: a 10-year survey of the literature. *J Anesth* 2011; 25: 257-62.
2. Hirota K. A worrying decline in anesthesia journal publications from Japan. *J Anesth* 2013; 27: 323-4.
3. Hirota K. Launch of JA Clinical Reports. Anesthesia research crisis in Japan. *J Anesth* 2015; 29: 161-3.
4. Hirota K. Anesthesia research in Japan; seeds of recovery and the role of JA. *J Anesth* 2017; 31: 803-5.
5. Hirota K. Has anesthesia research activity in Japan successfully recovered? *J Anesth* 2020; 34: 639-41.
6. Nature Index Japan 2017.
7. Nature Index Japan 2019

【現職】

弘前大学大学院医学研究科長兼医学部長
麻酔科学講座教授

【経歴】

- 1986 年 3 月 弘前大学医学部麻酔科学講座入局
- 1991 年 1 月 弘前大学医学部附属病院・助手
- 1992 年 7 月 米国イリノイ大学シカゴ校医学部麻酔科留学(客員講師)
- 1995 年 6 月 英国イースター大学医学部麻酔科留学(客員研究員)
- 2001 年 4 月 弘前大学医学部附属病院・講師
- 2001 年 4 月 Br J Anaesth, Editorial Board Member
- 2003 年 10 月 英国 Royal College of Anaesthetists 特別会員
- 2004 年 9 月 弘前大学医学部麻酔科学講座・教授
- 2010 年 4 月 国立大学協会病院経営小委員会・専門委員
- 2011 年 5 月 J Anesth, Editor-in-Chief

- 2012 年 2 月 弘前大学大学院医学研究科・副研究科長
- 2012 年 4 月 WFSA(世界麻醉科学会連盟)Publication Committee Member
- 2015 年 12 月 米国 Association of University Anesthesiologists 正式会員
- 2017 年 4 月 日本学術振興会学術システム研究センター・医歯薬学専門研究員
- 2017 年 6 月 JA Clin Reports, Editor-in-Chief
- 2018 年 4 月 弘前大学医学部附属病院・病院長補佐
- 2020 年 4 月 弘前大学大学院医学研究科・研究科長(兼医学部長)

【学歴】

- 1978 年 3 月 県立千葉高校卒
- 1980 年 3 月 早稲田大学理工学部応用化学科中退
- 1986 年 3 月 弘前大学医学部卒
- 1990 年 3 月 弘前大学大学院医学研究科卒(医学博士)

【資格等】

- 1989 年 1 月 麻醉標榜医取得
- 1990 年 3 月 医学博士取得
- 1991 年 4 月 日本麻醉科学会麻醉専門医、指導医取得
- 1994 年 10 月 日本ペインクリニック学会専門医取得
- 1997 年 9 月 臨床修練指導医資格取得

【学会】

日本麻醉科学会、日本臨床麻醉学会、日本区域麻醉学会、日本静脈麻醉学会、
 日本心臓血管麻醉学会、日本ペインクリニック学会、日本集中治療医学会、
 日本神経麻醉集中治療学会、循環制御医学会、日本蘇生学会、稲門医学会、
 Anaesthetic Research Society (英国)、Association of University Anesthesiologists (米国)

「これからの医学・医療への 関心喚起の取り組み」

早稲田大学 理工学術院 先進理工学部・研究科

朝日透



【抄録】

2019年8月4日に開催された第3回稲門医学会・学術集会において宣言した校友会支援講座の改編の結果を報告する。学生らが「医療 x X」に関して大いに関心があることが分かった。さらに、2020年11月8日、理工展イベントにて実施した山中竹春理事と武藤真佑理事との鼎談「「新型コロナウイルス感染症に対する諸検査に関する考察」について報告する。

【現職】

教授

【経歴】

早稲田大学理工学部助手、日本学術振興会博士特別研究員、早稲田大学各務記念材料技術研究所助手・助教授、同大学理工学総合研究所助教授、先端科学・健康医療融合研究機構 生命医療工学研究所教授を経て、同大学理工学術院先進理工学部生命医科学科・先進理工学研究科生命医科学専攻の教授となり、現在、ナノ理工学専攻、先進理工学専攻の教授も兼任している。その間、先端科学・健康医療融合研究機構 機構長を務め、現在はナノ・ライフ創新研究機構 副機構長、総合研究機構グローバル科学知融合研究所 所長、及び先進理工学部・研究科の教務担当教務主任を務める。

2020年、内閣府 ムーンショット型農林水産研究開発事業「地球規模の食料問題の解決と人類の宇宙進出に向けた昆虫が支える循環型食料生産システムの開発プロジェクト」の副プロジェクトマネージャー及びPIを兼任し、さらに、科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業「山内物質空間テクトニクスプロジェクト」のプロジェクトマネージャーを務める。

【学歴】

1981 年 都立白鷗高校卒業

1986 年 早稲田大学工学部応用物理学科を卒業

1988 年 同大学院理工学研究科物理学及応用物理学専攻修士課程修了

1992 年 早稲田大学大学院理工学研究科より博士（理学）

2007 年 早稲田大学ビジネススクールより経営学修士を取得

【資格等】

博士（理学）早稲田大学、経営学修士（専門職）

【学会】

日本物理学会、日本化学会、日本結晶学会、日本磁気学会、応用物理学会、
日本薬学会、日本セラミックス協会、電気化学会に所属。

シンポジウム 第1部 「早稲田からの医療への新しい取り組み」

14:00-15:00

日本は超人口減少、高齢化、少子化社会が進行し、国民皆保険制度を維持していくうえで多くの課題を有している。

さらに新型コロナウイルス感染症をきっかけに医療改革のスピードは増しており、テクノロジーや AI、新たな ICT システム、医薬品、医療機器、再生医療、ロボットの研究開発、臨床応用、レギュラトリーサイエンスの重要性が増している。

そうした中で早稲田出身で医療界で活躍している方々は少なからずおり、今回、産官学それぞれの分野から知見を結集し、早稲田から新たな医療を創出していくためにディスカッションを行う。

座長：宮田 俊男

(早稲田大学理工学術院教授)



【プロフィール】

早稲田大学理工学部にて人工心臓の研究開発を行い卒業後、大阪大学医学部編入・卒業。

外科医として臨床に従事した後、厚生労働省に入省し、数々の医療改革に関わる。

厚生労働省退官後、2013年より内閣官房補佐官として、政府に助言。

現在は厚生労働省参与。

自らも地域医療を推進するため、医療法人社団 DEN みいクリニック代々木を立ち上げ、地域包括ケアシステムの構築を実践。オンライン診療にも取り組み、取材多数。またベンチャー企業 Medical Compass を起業し、2万ダウンロードを超えるセルフケアアプリ 健こんぱすの考案者としても知られる。日本健康会議実行委員。主な著書に『製薬企業クライシス -生き残りをかけた成長戦略-』（エルゼビア・ジャパン）など。

シンポジウム 第1部 「早稲田からの医療への新しい取り組み」

14:00-14:15

「レギュラトリーサイエンスの実践
－革新的技術の取り込み－」

鎌田 光明

厚生労働省医薬・生活衛生局長

【プロフィール】

- | | |
|--------------|----------------------|
| 昭和 61 年 | 早稲田大学政治経済学部卒業 |
| 同年 | 厚生省入省 |
| 平成 6 年 | JETRO ニューヨークセンター |
| 平成 23 年 | 厚生労働省医政局経済課長 |
| 平成 27 年 | PMDA 総括調整役 |
| 平成 28 年 | 国立国際医療研究センター国際医療協力局長 |
| 平成 29 年 | 内閣官房内閣審議官 |
| 令和 2 年 3 月より | 現職 |

シンポジウム 第1部 「早稲田からの医療への新しい取り組み」

14:15-14:30

「医療への新しい取り組み ～起業、ビジネスから～」

株式会社アルム

坂野 哲平



【抄録】

2001年に早稲田大学理工学部卒業と同時にスキルアップジャパン(株)を設立し、動画配信プラットフォーム事業に従事。動画配信事業の売却を機に医療 ICT 事業への本格参入を行い、医療 機器プログラム・医療機器の開発から販売までを手がけ、世界 22 カ国で展開している。主に技術・ビジネス面から急性期医療分野に携わってきたが、昨今は、新型コロナ対策の医療 ICT の研究開発も行っている。“医療×ICT×α”の取り組みについて発表させていただきます。

【現職】

株式会社アルム 代表取締役社長
一般社団法人 日本医療ベンチャー協会 理事

【経歴】

株式会社アルム、創設者及び CEO。2001年早稲田大学理工学部卒業と同時にスキルアップジャパン(株)を設立し、動画配信プラットフォーム事業に従事。動画配信事業の売却を機に医療 ICT 事業への本格参入を行い、2015年に(株)アルム (Allm Inc.) に商号変更した。医療機器プログラムの開発から販売までを手がけ、世界 22 カ国で展開している。同社の医療関係者間コミュニケーションアプリ「Join」は、日本初の保険適用ソフトウェアとなった。在、フィリップス社、シーメンス社、エーザイ社などのグローバル企業と提携し、救急医療のデファクトプラットフォームとなりつつある。脳動脈瘤治療用ステント開発や流体解析シミュレーションソフトや医療法人経営も行っている。

- ・東北大学 特任教授
- ・東京医科歯科 非常勤講師
- ・東京慈恵会医科大学 医療情報技術研究部 研究員

【学歴】

早稲田大学理工学部卒業

シンポジウム 第1部 「早稲田からの医療への新しい取り組み」

14:30-14:45

「ロボット技術と未来の手術

ースマートロボットとスマート治療室の開発ー」

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 副所長
先端工学外科学分野 教授
メディカル AI センター センター長
脳神経外科 教授 (兼務)
早稲田大学理工学術院 (大学院先進理工学研究科) 客員教授
神戸大学医学部 客員教授



村垣 善浩

【学位・資格等】

博士 (医学) : 1997 年女子医, 博士 (生命医科学)
: 2014 年早稲田大学理工学術院, 脳神経外科学会専門医, がん治療認定医,
医療情報管理士, ディープラーニングジェネラリスト、Best Doctors

【略歴】

1986 年 3 月 神戸大学 医学部 卒業
1986 年 4 月 東京女子医科大学 脳神経センター 脳神経外科 研修医
1992 年-1995 年 米国ペンシルバニア大学病理学教室 (Trojanowski 教授 Lee 教授)留学
1999 年-2001 年 東京女子医科大学 脳神経外科医局長
2011 年 4 月 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 先端工学外科学分野 /
脳神経外科 (兼任) 教授

【学会・委員等】

厚生労働省 医療ニーズの高い医療機器等の早期導入に関する検討会 副委員長, 厚生労働省
保健医療分野における AI 活用推進懇談会 構成員, 厚生労働省 患者申出療養評価会議
技術専門委員, 経済産業省 産業構造審議会 産業技術環境分科会 委員, 経済産業省
手術ロボット国際標準化国内検討委員会 委員長, 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

(PMDA) 専門委員, 厚生労働省次世代医療機器評価指標検討会・経済産業省医療機器開発ガイドライン評価検討委員会合同検討会委員, 総務省情報通信審議会専門委員、日本工業標準調査会 (JISC) 標準第一部会医療機器技術専門委員会委員長、手術ロボット国際標準化国内委員会委員、日本生体医工学会 理事, 日本脳腫瘍の外科学会 理事, 日本脳腫瘍学会 理事, 日本コンピュータ外科学会 理事, がんワクチン療法研究会 会長, 日本脳神経モニタリング学会理事, ニューロオンコロジーの会 代表世話人, 日本脳神経外科国際学会フォーラム運営委員, 日本脳神経外科光線力学学会運営委員, 国際集束超音波学会 (ISTU) 理事, Neurol Med Chir (Tokyo: NMC) Journal of Neurooncology, の editorial board 他

【主な英文雑誌への掲載数】

NMC (13), J Neurosurg (22), Acta Neurochir (11), Neurosurg (3), World Neurosurg (10), J Neurosci (2), Brain (1), Nat Genet(1) 他. 被引用論文数 5193, h 指数 36 (by Google scholar)

【賞】

2002 年 日本コンピュータ外科学会講演論文賞
2004 年 第18回先端技術大賞 産経新聞社賞
2007 年 グッドデザイン賞 部門/分類:新領域デザイン部門
第2回 モノづくり連携大賞 特別賞
2010 年 産官学連携功労者 科学技術担当大臣賞
2011 年 東京都医師会賞 グループ研究賞
2013 年 Microsoft Innovation Award 2013 最優秀賞
2014 年 日本超音波医学会第87回学術集会奨励論文賞
日本生体医工学会 荻野賞
2016 年 グッドデザイン賞
2019 年 第1回日本オープンイノベーション大賞 厚生労働大臣賞 他

シンポジウム 第2部 「当事者・市民協働の医療を目指して

～当事者・市民が医療に望むこと」

15:00-17:00

座長：武藤 真祐

(医療法人社団 鉄祐会)



【現職】

- ・医療法人社団鉄祐会 理事長
- ・株式会社インテグリティ・ヘルスケア 代表取締役会長
- ・Tetsuyu Healthcare Holdings Co-founder & Director
- ・東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床教授

【経歴】

- ・東京大学医学部附属病院 研修医
- ・三井記念病院 循環器内科医
- ・宮内庁 侍従職侍医
- ・マッキンゼー・アンド・カンパニー 経営コンサルタント

【学歴】

- ・私立開成高校卒業
- ・東京大学医学部医学科卒業 (M.D.)
- ・東京大学大学院医学系研究科内科学専攻博士課程修了(Ph.D.)
- ・早稲田大学大学院ファイナンス研究科専門職学位課程修了(MBA)
- ・INSEAD 修了(Global Executive MBA)
- ・Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health(2017 修了 MPH)
- ・Johns Hopkins Carey Business School
- ・大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程入学

【資格等】

- ・ 日本国医師資格
- ・ 米国医師資格試験合格（カリフォルニア州）
- ・ 米国公認会計士試験合格（デラウェア州）
- ・ 日本内科学会認定医
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医
- ・ 日本在宅医学会暫定指導医
- ・ 日本臨床疫学会認定専門家
- ・ 日本医師会認定産業医

【学会】

- ・ 行動経済学会
- ・ 日本高血圧学会
- ・ 日本遠隔診療学会
- ・ 日本認知症学会
- ・ 日本がんサポーターズケア学会
- ・ 日本循環器学会
- ・ 日本内科学会
- ・ 日本プライマリ・ケア学会
- ・ 日本緩和医療学会
- ・ 日本在宅医学会
- ・ 全国在宅医療支援診療連絡会
- ・ 日本臨床疫学会
- ・ 日本臨床試験学会

【プロフィール】

東大病院、三井記念病院にて循環器内科に従事後、宮内庁で侍医を務める。その後マツキンゼー・アンド・カンパニーを経て、2010年医療法人社団鉄祐会を創業。2015年シンガポールでTetsuyu Healthcare Holdings Pte, Ltd.を設立。2016年、株式会社インテグリティ・ヘルスケアの代表取締役会長就任。東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床教授。日本医療政策機構理事。一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブ理事。一般社団法人Medical Excellence JAPAN インバウンド委員会 委員長。2019年度第29回武見奨励賞受賞。東京大学医学部卒業(MD)。東京大学大学院医学系研究科博士課程修了(Ph.D.)。INSEAD Executive MBA。Johns Hopkins MPH。

シンポジウム 第2部 「当事者・市民協働の医療を目指して」

～当事者・市民が医療に望むこと～ 15:00-17:00

座長：杉原 正子

(独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター)



【現職】

独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター

【経歴】

日本アイ・ビー・エム(株)にてシステムエンジニア (SE)

普連土学園高等学校非常勤講師

早稲田大学医療人類学研究所招聘研究員

【学歴】

早稲田大学教育学部数学科卒業

早稲田大学大学院教育学研究科国語教育修士課程修了

米国ハーバード大学大学院比較文学科留学

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻修士課程修了、同大学院博士課程単位取得退学

山梨大学医学部卒業

現在、東京医科歯科大学大学院医師歯学総合研究科博士課程在学中

【資格等】

日本精神神経学会専門医

日本医師会認定産業医

日本生命倫理学会「当事者・市民協働参画を考える」部会・部会長

日本臨床倫理学会 臨床倫理認定士(臨床倫理アドバイザー)

医学教育開発研究センター(MEDC) アソシエイト

早稲田大学校友会稲門医師会・稲門医学会理事

【学会】

日本医学教育学会
日本医学哲学倫理学会
日本精神神経科学会
日本生命倫理学会
日本臨床倫理学会
日本保健医療社会学会会員

【プロフィール】

早稲田大学で数学を学んだ後、日本 IBM(株)に勤務したが、「機械は愛せない。」と確信し、文学の大学教員を目指して5年半で退社する。ところが、大学院に通いながら高校で医療系小論文を教えたことを契機に医学に目覚め、山梨大学医学部、慶應義塾大学病院での初期研修、慶應の精神神経科学教室への入局を経て、現在に至る。

シンポジウム 第2部 「当事者・市民協働の医療を目指して」

～当事者・市民が医療に望むこと」 15:05-15:25

「4回のがん闘病経験から考える、医師と患者のコミュニケーションと信頼関係構築における課題」

(株式会社オーシャンブリッジ ファウンダー
 悪性脳腫瘍（グリオーマ）、悪性リンパ腫
 （急性リンパ性白血病）、急性骨髄性白血病、
 大腸がんのサバイバー）

高山 知朗



【抄録】

医師と患者の間には超えられない高い壁がある。情報格差である。しかし、患者が納得して治療を受け、治癒にたどり着くためには、双方ともにその壁を乗り越える努力が必要である。まず患者は、「主体的な患者」になる必要がある。つまり、「先生に全てお任せします」ではなく、自分の病気やその治療法について、自ら調べ、学んでいく。そしてその知識に基づいて、医師に質問し、話し合うことで、納得して治療に臨んでいくことが望ましい。一方で医師は、そうした患者からの質問を、煙たがることなく、真摯に受け止め、患者の視点に立って分かりやすく回答することが望まれる。

そうした医師、患者の双方からの歩み寄り、つまりともに情報格差を埋める努力をすることによって、両者の間に信頼関係が構築され、患者は納得した治療を受けることができる。治療の結果、仮に障害などが残ったとしても、後悔することなく、それを受け入れて前向きに人生を歩んでいくことができる。

がん治療の世界では、「5年生存率」という数字が用いられるが、一人ひとりの患者にとっては、ゼロか1かしかない。どんなに生存率の数値が低かろうと、患者はその生き残るほうのパーセントに入ることを望んでいる。

よって医師は、患者を集団として見たときの統計数値、つまりエビデンスをただ患者に当てはめるだけでは不十分である。患者一人ひとりの「生きたい」という願いを汲み取り、患者に寄り添ったコミュニケーションをすることが求められる。

【所属】

株式会社オーシャンブリッジ

【現職】

株式会社オーシャンブリッジ ファウンダー

【経歴】

- 1994 アンダーセンコンサルティング（現アクセンチュア）入社、戦略グループ所属。
- 1997 インターネット関連ベンチャー企業入社。
- 2001 株式会社オーシャンブリッジ設立、代表取締役社長就任。
（海外製ソフトウェアの日本語化、マーケティング、販売、サポートを提供）
- 2011 悪性脳腫瘍（グリオーマ）の摘出手術、化学療法、放射線治療を受ける。
- 2013 悪性リンパ腫（急性リンパ性白血病）の化学療法、放射線治療を受ける。
- 2017 急性骨髄性白血病のさい帯血移植治療を受ける。
- 2020 大腸がんの腹腔鏡下手術を受ける。

【学歴】

1994 早稲田大学政治経済学部卒業

【著書】

治るという前提でがんになった 情報戦でがんを克つ（2016年 幻冬舎）

【ブログ】

オーシャンブリッジ高山のブログ

<https://www.oceanbridge.jp/taka/>

【特別出演】

シンポジウム 第2部 「当事者・市民協働の医療を目指して」

～当事者・市民が医療に望むこと」 15:45-16:05

「補完代替療法を利用する患者心理から見えてくる、
今、医療現場に足りないこと」

島根大学医学部附属病院臨床研究センター

大野 智



【抄録】

西洋医学の進歩により、さまざまな疾患について治療法の開発や病因の分析に多大な貢献をもたらしたことに疑いの余地はない。しかし、その一方で、多くの国民・患者が、西洋医学だけでなく健康食品、漢方、鍼灸などの補完代替療法を利用している実態がある。がんの診療現場における実態調査では、約半数の患者が補完代替療法を利用していることが明らかとなっている。また利用していない患者においても補完代替療法に興味関心を抱いているといった者もあり、実際の利用者と合わせると8割を超えるとの報告もある。

では、なぜ患者は、補完代替療法を利用するのであろうか？

がん患者を対象とした最近の調査¹⁾では補完代替療法に期待することとして、最も回答が多かったのは「精神的な希望」であった。この事実は、裏を返せば、今の医療現場において精神的な希望が足りていないことを意味してくる。

もう少し時間を巻き戻して、この問題点について考えてみる。

そもそも患者が補完代替療法に関心を持ったり、利用し始めたりする切っ掛けは病気と診断されたからであろう。健康であれば補完代替療法を利用する必要性はない。病気と診断され、後悔・不安・葛藤を抱えながら治療を受けるなかで、精神的な希望を補完代替療法に見出している患者の心理を考えると、医療現場が抱える課題や問題点が浮かび上がってくる。「医師は病気の治療ばかりに注力し、患者の心理ケアがおざなりになっていないか？」「インフォームドコンセントをはじめ医師・患者間のコミュニケーションに問題はないか？」「そもそも論として、医師を養成する医学教育に課題はないか？」

玉石混交とされる補完代替療法について、患者がトラブルに巻き込まれないようにするために、規制を強化するなどの厳罰主義では問題は解決しない。上記に挙げたような医療

現場における課題を解決することで、患者自身が安心・納得して治療を受けることにつながり、そのことが補完代替療法が抱える問題点を解決する道筋になるものとする。

シンポジウムでは、補完代替療法に関する研究の動向なども紹介しつつ、『当事者・市民協働の医療を目指す』ために何が足りないのか、どうすれば解決するのか、について話題提供したい。

[参考文献]

- 1) 鈴木梢ほか、*Palliat Care Res* 12; 731-737, 2017.

【現職】

島根大学医学部附属病院臨床研究センター センター長・教授
帝京大学臨床研究センター 客員教授

【経歴】

- 1998 島根医科大学第二外科（消化器外科）入局
- 2002 金沢大学補完代替医療学講座 客員助手
- 2005 大阪大学機能診断科学講座 特任研究員
- 2006 金沢大学補完代替医療学講座 特任助教授
- 2007 早稲田大学人間科学部 非常勤講師（免疫学の講義担当） [-2012]
- 2009 東京女子医科大学国際統合医科学インスティテュート 特任准教授
- 2010 早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構（ASMeW）客員准教授（※2015~ナノ・ライフ創新研究機構に改称） [-2018]
- 2013 帝京大学医学部臨床研究医学講座 特任講師
帝京大学医学部附属病院 緩和ケアチーム医師（兼任）
- 2015 大阪大学統合医療学寄附講座 寄附講座准教授
大阪大学医学部附属病院 緩和ケアチーム医師（兼任）
帝京大学臨床研究センター 客員准教授 [2018-客員教授]
- 2018 島根大学医学部附属病院臨床研究センター センター長・教授

【学歴】

- 1998 島根医科大学医学部医学科卒業
- 2002 島根医科大学大学院修了（医学博士）

【資格・社会活動等】

- 2002~2011 厚生労働省がん研究助成金 がんの代替医療に関する研究班
- 2012~現在 日本緩和医療学会ガイドライン委員（補完代替療法分野担当）
- 2013~現在 厚生労働省 「統合医療」に係る情報発信等推進事業（代表者）
- 2017~2019 内閣府消費者委員会新開発食品調査部会
新開発食品評価第一調査会 専門委員

【学会】

日本緩和医療学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本東洋医学会など

KAITEKI Value for Tomorrow
三菱ケミカルホールディングスグループ

田辺三菱製薬

この手で、
未来を。

感じる 描く 動かす
創る 育てる 届ける
そして 抱きしめる

健康で長生きできる未来を
病とその不安を乗り越える未来を
理想のその先にある未来を

一人ひとりの手で
みんなの手で
希望を信じるこの手で



田辺三菱製薬のシンボルマークは手のひらをモチーフにしています。
www.mt-pharma.co.jp



命のために、
できることを
すべてを。

大日本住友製薬

Innovation today, healthier tomorrows

Photography by ハービー-山口

挿管用喉頭鏡
ダムスチューリップ-アイ
Laryngoscope for fiberscope

Dams TuLipは、フラップ先端厚が2.2mm、最大高14.5mm、最大幅36mmの最小サイズに設計され、柔軟なシリコンで作られているので、口が開けにくい場合や、咽頭に障害がある場合でも、粘膜組織に与える刺激を最小限に抑え、ファイバースコープの円滑な挿入をサポートします。
付属のイントロデューサーは、Dams TuLip先端のフラップの反り返りを防止します。

Dams TuLip-i



Everyday PIXYS

日本の麻酔科医から頂いたご意見、ご要望を形にしました。
操作性、視認性、安全性、保守管理を追求したモデルです。

麻酔管理に求められる明瞭な表示、確実な操作性、使い易さをコンセプトに開発された、次世代を担う麻酔システムです。

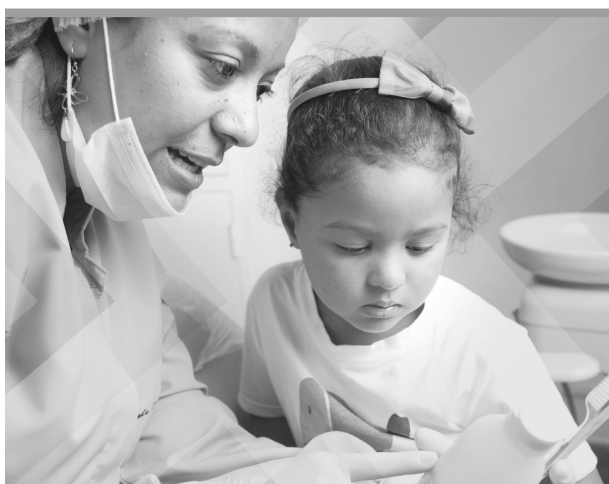
メラ吸入麻酔システム
PIXYS II
Inhalational Anesthesia System



製造販売業者
MERA 泉工医科工業株式会社

■埼玉県春日部市浜川戸2-11-1 ■問い合わせ先：本社商品企画：TEL.03-3812-3254 FAX.03-3812-4613
■営業拠点：札幌支店・東北支店・青森・盛岡・福島・関東支店・松本・新潟・東京支店・つくば・横浜・中部支店・静岡・金沢・関西支店・中四国支店・岡山・四国・九州支店・鹿児島
●PIXYS II：承認番号：22400BZX00110000 ●Dams TuLip-i：●届出番号：20B3X000100000029

Baxter



患者さんの生命を守る

SAVE AND SUSTAIN LIVES

すべての人は病のない、可能性に溢れた健康な生活を
送る機会を与えられるべきだとバクスターは信じています。

私たちは地域に根差し、多様性を尊重した包括的な職場を作り、
医療へのアクセス向上を促すことでより良い変化をもたらしています。

バクスター株式会社
www.baxter.co.jp



McGRATH™



TaperGuard™



Nellcor™



INVOS™



販売名 McGRATH MAC ビデオ喉頭鏡
医療機器認証番号 224AABZX00112000
販売名 ネルコアオキシセンサⅢ
医療機器届出番号 13B1X00069PS006A

販売名 TaperGuard 気管チューブ
医療機器認証番号 221AABZX00145000
販売名 無侵襲混合血酸素飽和度監視システム
医療機器認証番号 223AABZX00011000

製造販売元
コヴィディエンジャパン株式会社
RMS (Respiratory & Monitoring Solutions) 事業部
Tel: 0120-998-971
medtronic.co.jp

Medtronic
Further Together

がんや血栓の新しい治療薬を届けたい。
第一三共が積み重ねてきたサイエンスに
新しい切り口を加えて
生まれるイノベーション。
その先に、希望という名の
ゴールがあると信じて。



イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



Daiichi-Sankyo
第一三共株式会社

丸石製薬の麻酔科製剤ラインナップ

全身吸入麻酔剤
 劇薬、処方箋医薬品^(※1)

セボフレソ 吸入麻酔液

SEVOFRANE[®] [日本薬局方：セボフルラン]

セボフルラン 吸入麻酔液 [ニッコウ]

SEVOFLURANE [日本薬局方：セボフルラン]

短時間作用型β₂遮断剤

劇薬、処方箋医薬品^(※1)

ブレビブロック注 100mg

BREVIBLOC[®] inj. 100mg [一般名：エスモロール塩酸塩]

長時間作用性局所麻酔剤

劇薬、処方箋医薬品^(※1)

ポプスカイン 0.25%注

(25mg/10mL・シリンジ25mg/10mL・パック250mg/100mL)

POPSCAINE[®] 0.25% inj. [一般名：レボブピバカイン塩酸塩]

ポプスカイン 0.5%注

(50mg/10mL・シリンジ50mg/10mL)

POPSCAINE[®] 0.5% inj. [一般名：レボブピバカイン塩酸塩]

ポプスカイン 0.75%注

(75mg/10mL・150mg/20mL・シリンジ75mg/10mL)

POPSCAINE[®] 0.75% inj. [一般名：レボブピバカイン塩酸塩]

局所麻酔剤

劇薬、処方箋医薬品^(※1)

日本薬局方

リドカイン 注射液 (0.5%, 1%, 2%)

LIDOCAINE INJECTION [一般名：リドカイン]

局所麻酔剤

劇薬、処方箋医薬品^(※1)

塩酸メピバカイン注シリンジ [NP] (0.5%, 1%, 2%)

MEPIVACAINE HYDROCHLORIDE INJECTION SYRINGE

[日本薬局方：メピバカイン塩酸塩注射液]

全身麻酔・鎮静剤

劇薬、習慣性医薬品^(※2)、処方箋医薬品^(※1)

プロポフォール 静注1%20mL [マルイシ]

プロポフォール 静注1%50mL [マルイシ]

プロポフォール 静注1%100mL [マルイシ]

Propofol Intravenous Injection 1% "Maruishi"

プロポフォール 静注2%50mL [マルイシ]

Propofol Intravenous Injection 2% "Maruishi"

α₂作動性鎮静剤

劇薬、習慣性医薬品^(※2)、処方箋医薬品^(※1)

プレセデックス 静注液200μg [マルイシ]

静注液200μg/50mLシリンジ [マルイシ]

Precedex[®] [一般名：デクスメドミジン塩酸塩]

血圧降下剤

毒薬、処方箋医薬品^(※1)

ニトプロ 持続静注液 (6mg, 30mg)

ニトプロ CONTINUOUS INTRAVENOUS SOLUTION

[一般名：ニトロプルシドナトリウム水和物]

非脱分極性麻酔用筋弛緩剤

毒薬、処方箋医薬品^(※1)

ロクロニウム臭化物 静注液 50mg/2.5mL [マルイシ]

Rocuronium Bromide Intravenous Solution

[一般名：ロクロニウム臭化物]

催眠鎮静剤

向精神薬、習慣性医薬品^(※2)、処方箋医薬品^(※1)

ドルミカム 注射液 10mg

Dormicum[®] Injection 10mg [一般名：ミダゾラム]

ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤

劇薬、処方箋医薬品^(※1)

フルマゼニル 注射液 0.5mg [F]

FLUMAZENIL Injection [一般名：フルマゼニル]

注1) 注意 - 医師等の処方箋により使用すること

注2) 注意 - 習慣性あり

* 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等詳細は添付文書をご参照ください。

薬価基準収載

製造販売元

丸石製薬株式会社

〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-2

【資料請求先】

丸石製薬株式会社 学術情報部

TEL.0120-014-561

2020年2月作成

hbc
human health care

患者様の想いを見つめて、
薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
 病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
 私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
 そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
 治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
 病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
 「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病予防活動を支援しています。

まだないくすりを 創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。



アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/

協和キリン株式会社

たった一度の いのちと 歩く。

私たちの志

ここに在る責任と幸福。

私たちの志は、いつの日か病気のないのちを
創り出すことである。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

病気を克服しよう。病気の力を、自分
の力で克服しよう。ここに在る責任と幸福。
また、病気のないのちを創るために、
命の尊厳を守ることも。

仕事は、人を助けることができる。かつ、私たちはそのことを喜びます。
私たちは、さまざまな場所で生まれ、さまざまな時間を経て、さながら病難のように、
この仕事、この会社、この仲間に出会った。そのことを心からよろこばう。
そして、いまここにいる自分に感謝し、その使命に心算をそそぎ、かけがえのない
いのちのために働くことを、誇りとうよう。
人間の健康を、人間のために使うしあわせ。私たちは、ひとりひとりが協和キリンです。
たった一度の、いのちと歩く。



私たちの志 検索

2019年7月作成